

希望はここに。

新

型

つながれ野党！みんな選挙！！

次期衆院選で政権交代めざそう

討論集会 愛媛から学ぶ市民選挙の可能性

8月22日（土）午後1時30分～4時30分

- ◇会場 神戸市たちばな職員研修センター 研修室
JR神戸・高速神戸駅北の湊川神社西向かい あすてっぷ KOBE 西側
- ◇講演 講師 青空えひめの会 遠藤泰弘さん(松山大学法学部教授)
- ◇報告 見えてきた次期衆院選 兵庫選挙区の構図 連帯兵庫みなせん
- ◇参加者による質疑・討論

新型コロナウイルスの歴史的なパンデミックが世界の政治、経済、社会を揺り動かしています。国内政治も昨年末から疑惑が拡大していた「桜を見る会」問題がコロナ感染症対策で安倍政権の窮状を救うかと思われたのもつかの間、後手後手に終始したコロナ対策に加えて黒川検事長問題、河井前法相夫婦の異例の選挙買収事件も重なって政権末期の症状が極まっています。

安倍政権はすでに“死に体状態”に陥り、退陣の時期と方法が焦点になるほど、コロナ禍での政治情勢は急展開しています。今こそ市民と野党が連携して安倍政権に終止符を打ち、政権交代への流れをつくりだすことが求められています。

コロナ次第では今秋解散説も出ていますが、遅くとも来年9月までに行われる次期衆院選へ向けて、連帯兵庫みなせんは県内の野党6党と連携し、県内12

の選挙区で野党統一候補を実現して、市民と野党の共闘を一層強めて選挙区議席の奪還をめざす協議を進めています。

その一環として8月22日（土）に「愛媛から学ぶ市民選挙の可能性」と題した討論集会を開催します。昨年の参院選一人区の中でも市民が主役の選挙を展開し「無所属の野党統一候補」が圧勝した愛媛の選挙を担った「青空えひめの会」の中心メンバーを招き、その成果と教訓を学ぶねらいです。

兵庫で「市民が主役の選挙」をどう広げるか。熱い議論を交わしましょう。

（裏面参照ください）



連帯兵庫みなせん 連絡先 minasenhjogo2016@gmail.com ☎078-691-4593 (出口) Fax078-691-5985

ホームページ 「兵庫みなせん」 <http://www.asahi-net.or.jp/~di9t-itu/>

カンパ&寄付金のお願い 郵便振替口座 口座番号 00970-8-174479 口座名：連帯兵庫みなせん

「完全無所属」の破壊力

参院選 愛媛選挙区 野党統一候補圧勝の秘密

昨年7月の参院選では、10県の一人区で野党統一候補が与党を制した。野党が勝った10人のうち、政党公認は2名（立民と国民各1名）で8名は無所属候補だった。3年前の今回は野党が勝った11選挙区のうち無所属は4名、政党公認が7名（いずれも民進党）だったのとは対照的だ。

野党統一候補が当選した10選挙区の得票はすべて、政党比例票の合計を上回った。共闘効果が大きく出た表れだが、中でも愛媛選挙区は野党比例票の2倍近い188%の得票で群を抜いていた。

その秘密を地元の南海放送は「“完全無所属”の破壊力」と表現した。候補の永江孝子さん（59）は元民主党の衆院議員だったが、保守王国と言われる愛媛で自民公認候補に8万6000票余りの大差をつけて当選したことで、自民党に大きな衝撃を与えた。

朝日新聞
DIGITAL

2019年7月31日 2019年7月31日 ニュース 政治ニュース 国民選挙 選挙の話題 選挙

愛媛)無党派層の7割が永江氏に 参院選出口調査

2019年7月31日 10時00分

愛媛県 各党支持層はだれに投票したか

数字は%。小数点以下は四捨五入。
割合は棒グラフ、候補名



完全無所属の秘訣

「ながえ語録」から

- ◎あらゆる政党のしがらみから解き放たれて、コツコツと地元を歩いた経験をもとに、自由に政策を創り上げたかった。
- ◎原発は無い方がいいけれど、立地県である愛媛では原発関連事業で生計を立てている方もいる。国が代替エネルギー政策をしっかりと立てるなど、立地県対策を手当てしないと即時停止などは無理。
- ◎改憲論議そのものは国民の権利。しかし、安倍首相が進めようとしている改憲論議は、内容的に必要性を感じないし、そもそも十分な説明がない。

（南海放送解説室／ニュースの深層
2019/7/31 から）

市民中心の「青空えひめの会」推薦

愛媛の取り組みについて「青空えひめの会」（オール愛媛スタートダッシュの会）の遠藤泰弘さん（松山大学法学部教授、政治学）は、基本戦略について次のように説明している。

- ① 愛媛は自公の比例票33万、維新5万、野党18万（れいわ含む）という保守王国。保守層の票を獲得するのが至上命題だ。
- ② 野党色を出さない「完全無所属」を貫くために、どの政党からも推薦をもらわずに、「青空えひめの会」という市民中心の政治団体を立ち上げて、そこに各政党や団体、組織が加入してもらう形をとった。実働部隊は、全県に組織した候補の後援会24支部が中心を担う。
- ③ 保守地盤で勝つためには、政党に頼らず、候補者個人の頑張りを認めてもらう。政党ではなく、永江だから入れるという支持者を増やすために、ひたすら全県を歩く。
- ④ 政策で“尖らない”。憲法、安保、原発などでも左派色のある政策は封印し、暮らしの政策に特化する。